

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年7月12日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	120	21	1	43	75	140
令 和 7 年	137	28	3	65	66	162
前 年 同 期 比	-17	-7	-2	-22	9	-22

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	9	7.5%	0	0	5	5	10
	後立山	38	31.7%	13	0	9	29	51
	その他	9	7.5%	1	0	6	3	10
計		56	46.7%	14	0	20	37	71
中央アルプス		9	7.5%	0	0	3	7	10
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		16	13.3%	4	0	5	9	18
その他の山岳		39	32.5%	3	1	15	22	41
計		120		21	1	43	75	140

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	35	29.2%	8	0	29	0	37
転 倒	11	9.2%	0	0	11	0	11
病 気	8	6.7%	3	0	0	5	8
道 迷 い	23	19.2%	0	0	0	33	33
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	2.5%	2	0	1	0	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	14	11.7%	2	0	0	12	14
不明・他	26	21.7%	6	1	2	25	34
計	120		21	1	43	75	140

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	1	5	6	31 33.7%	0	0	0	3	3	19 39.6%	9	50 35.7%
20代	2	0	2	14	18		0	0	1	4	5		23	
30代	1	0	2	4	7		1	0	1	9	11		18	
40代	4	0	6	6	16	32	1	0	1	2	4	16	20	48
50代	5	0	6	5	16	34.8%	1	0	7	4	12	33.3%	28	34.3%
60代	3	0	7	10	20	29	2	0	3	2	7	13	27	42
70以上	1	1	3	4	9	31.5%	0	0	3	3	6	27.1%	15	30.0%
計	16	1	27	48	92		5	0	16	27	48		140	
比 率	65.7%						34.3%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（7/6～7/12）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
7月6日	北アルプス 槍ヶ岳	男	25	無事救出	その他	単独で槍ヶ岳から下山中、技量不足で、行動不能。
7月9日	北アルプス 常念岳	男	66	無事救出	疲労	4人パーティで蝶ヶ岳から常念岳へ向け縦走中、疲労で、行動不能
						上記遭難現場写真
7月9日	岩菅山	女	13	無事救出	疲労	岩菅山を登山中、疲労で、行動不能
7月9日	北アルプス 北穂高岳	女	71	無事救出	疲労	4人パーティで北穂高岳から下山中、疲労で、行動不能
7月11日	ハケ岳連峰 中山峠付近	女	66	負傷	転倒	3人パーティで中山峠付近を登山中、バランスを崩し、転倒、負傷
7月11日	風越山	男	51	負傷	滑落	単独で風越山から下山中、バランスを崩し、滑落、負傷
7月11日	霧ヶ峰高原 車山肩付近	女	75	負傷	転倒	2人パーティで車山付近を登山中、バランスを崩し、転倒、負傷
7月11日	ハケ岳連峰 北横岳	男	66	無事救出	発病	16人パーティで北横岳付近を下山中、体調不良で、行動不能
7月12日	北アルプス 白馬岳	女	43	無事救出	その他	4人パーティで白馬大雪渓を登山中、技量不足で、行動不能
		女	39			
		女	39			

先週県内では、9件の山岳遭難が発生しました。

槍・穂高連峰周辺では、脱水による疲労遭難、ハケ岳連峰や低山帯では、滑落や転倒による遭難が発生するなど、夏山特有の遭難が多発しました。

週の中頃から気温が上昇し、金曜日には長野市や松本市の平地で、今年初となる35度を超える猛暑日になるなど、山岳地帯でも高温・多湿な環境となりました。

夏山本番のこの時期、行動前・行動中の水分不足やエネルギー不足は、脱水による筋疲労や筋けいれん、頭痛や意識障害など、熱中症の諸症状を誘発する原因となります。

行動中はこまめに休憩、水分補給を行いましょう。

補給する水分は、塩分が入ったスポーツドリンクが推奨されます。お茶には利尿作用があるため、尿として体から水分が排出されやすくなります。また、水だけの水分補給では、自発的脱水を誘発するため、一緒に塩分を補給しましょう。

また、パンやおにぎり、チョコレートや飴などの行動食を水分と一緒にタイミングで補給し、体のエネルギー切れにも注意しましょう。

昔と比べれば、山の上も暑くなっています。登山をするなら、日頃から体力錬成に励むことは当然ですが、バテないために積極的な補給を意識しましょう。